

第32期目録委員会記録 No.14

第14回委員会

日時：2010年6月26日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長、東、木下、酒見、高橋、鴫田、平田、古川、本多、横山、渡邊
<事務局>磯部

[配付資料]

- 1.ISBD Examples in Word（12ページ-A4、渡邊委員）
- 2.「目録の作成と提供に関する調査」について（お願い）（1ページ-A4、原井委員長）
- 3.目録の作成と提供に関する調査（4ページ-A4調査用紙、酒見委員）
- 4.「目録の作成と提供に関する調査」についての質問と回答状況（3ページ-A4、事務局）
- 5.「図書館目録をめぐる今日的状況」（3ページ-A4、渡邊委員）
- 6.新しい国際目録原則（2ページ-A4、横山委員）
- 7.RDA:『英米目録規則』の抜本的改訂（2ページ-A4、古川委員）
- 8.JLA目録委員会の活動と新しいNCR（2ページ-A4、原井委員長）
- 9.NCR改訂の方向性について（検討メモ）（5ページ-A4、原井委員長）
- 10.他の目録規則、国際規格とNCRの比較（18ページ-A4、鴫田委員、平田委員）
- 11.第32期目録委員会記録 No.12（3ページ-A4、事務局）
- 12.第32期目録委員会記録 No.13（案）（4ページ-A4、事務局）
- 13.第32期(2009.4～2011.3)目録委員会名簿（1ページ-A4、事務局）

[報告事項ほか]

1. 新委員の就任について

委員長より、本多信喜氏（東京都立中央図書館）が委員に就任した旨、報告があった。
新旧委員の自己紹介を行った。

2. 議事録の確認

第13回記録案（資料12）を確認した。

3. ISBD Full Examplesの翻訳提出

ISBD Full Examplesの改訂にあたり依頼のあった、エリア0の設定に必要な情報を含んだエリア5を英語に翻訳したものをIFLA側に提出し、折り返し返事があったことが渡邊委員より、報告された。IFLAのグループで今回提出したものに基づき、エリア0の記述が確定されるので、その後、それを日本語に訳す必要がある。作業の日程は不明だが、前もってエリア0の用語を全て日本語に訳しておく必要が出てきたため、次回委員会までに、エリア0と、NCRのGMD、RDAの資料種別の対照表を作成することになった。担当は東委員。

4. 目録に関する調査について

調査票は2010年6月22日に、約3,000館（うち大学図書館分は約1,700館）に向けて発送された。現在のところ55館から回答が寄せられている。郵送、Fax、メール添付、フォーム入力それぞれに利用されている。これまでに寄せられた質問のうち、未回答のものについて、検討を行った。

【A図書館】

問6 OPACについて、キーボード式とタッチパネル式の両方を提供しており、機能や要素に違いがあるが、質問にはどちらか一方の方式に限って回答するか、どちらかの方式であれば、該当するもの全てを回答するのか。

問6の設問は、ほとんどが複数回答可であるので、該当するもの全てを回答してもらう。

【B図書館】

問7 4)3のOCLC利用はどのような利用をいうのか？

OCLCと正式に契約している場合をいう。（ILLは別）

【C図書館、D図書館】

ブラウザを使用しているが館内だけで使っているシステムをWebOPACと言えるか？

システムのウェブベースであっても、公開されていなければWeb OPACとは言えない。

【E図書館】

書誌情報等の電子化が、OPACといえるかどうかの判断と、問6の回答方法。

電算化されていても、利用者が使えるものでなければ、OPACとはいえない。提供でなく、作成の設問のみを回答してもらう。

・今後の質問への対応

今後、〆切りまでに送られてくる質問への回答は、事務局よりメールにて転送してもらい、委員が協力して回答案を考えることにする。

・調査後の集計

今回のアンケート回答方法は4種類あるが、全てを紙に打ち出して業者に入力してもらうこととする。10月までに入力が終わってればよい。入力後の集計と分析の分担については、10月に再度相談する。

5. 図書館大会の原稿について

図書館大会の予稿集に載せる予定の原稿（資料5-8）について、それぞれ確認、検討を行った。タイトルは以下の通り。

【渡邊委員： 図書館目録をめぐる今日的状況】

- ・タイトルを「目録規則をめぐる今日的状況」に変更する。
- ・On the recordの翻訳版のURLを本文に挿入する。

【横山委員： 新しい国際目録原則】

- ・ICPの設立経緯を追加する。
- ・ICPの目次の一部を追い込みにして、使用する行数を減らす。
- ・策定の経緯は短くまとめる。

- ・個人・団体を個人・家族・団体とする。
- ・FRBRの記述に第一グループについても追加する。
- ・ICPの翻訳版のURLを挿入する。
- ・全体を通じてFRBRの説明が足りないので横山委員の担当部分でもう少し説明を加える。
- ・FRADについて、横山委員の原稿に説明を入れる。

【古川委員： 『英米目録規則』の抜本的改訂】

- ・優先アクセスポイント(Preferred access point)は最終的に典拠形アクセスポイント(Authorized access point)に変更されていると思われるため、その部分については確認の上修正する。他の原稿に出てくる箇所も同様に変更する。
- ・Core elementの訳は、他の原稿とも合わせて、コア・エレメントで統一する。

【原井委員長： JLA目録委員会の活動と新しいNCR】

- ・5.4「規則自体の相互交換も検討する。」という部分を変更する。
- ・6.8その他の部分を一部カットして、6の前文として挿入する。
- ・データ要素(エレメント)をエレメント(データ要素)に変更する。

【その他】

- ・FRBRの概念モデル図などを資料として提示するために、もう1ページ余分にもらえないか図書館大会の事務局に依頼してみる。担当は渡邊委員。
- ・各原稿にある略語の分かりにくさを軽減するため、当日配布用の資料を作成することとする。本多委員が各原稿からピックアップしたものに、鴫田委員が説明を付ける。9月4日の委員会で最終的に確認する。説明のよりどころとして国際目録原則用語集(http://www.ifla.org/files/cataloguing/icp/icp_2009-ja.pdf)を使用する。
- ・前の原稿で言及されたものは、その後ろの原稿では割愛する。

6. NCRの改訂について

原井委員長より資料8と合わせて、資料9についての説明が行われた。前回の議事録による部分と、資料8を作成するにあたって、前回から大幅に構成が変更されている。

- ・1(1)記述対象の「微細化」の言葉は、論文も十分に扱えるという意味を指している。「多様化」に変更する。

7. 図書館大会の申し込みについて

7月2日までに申し込むと、参加費の早割が適用されるということで、各自、早めに申し込んでおくことを確認した。

次回以降の委員会の予定

7月31日(土)

9月4日(土)